

坂根八幡宮蔵の「豊臣三韓征伐絵馬」の考察

丸谷憲二

1 はじめに

坂根八幡宮(備前市坂根 56)蔵の絵馬修復依頼が高嶋基先生にあり、5 月 9 日に修復作業前の現物確認依頼がありました。絵馬の精密な描写に注目し、竹原信之先生(岡山県立博物館)に調査を依頼しました。5 月 11 日に訪問され現物を確認されました。



2 竹原伸之先生の所見

どうやら神武皇后の三韓征伐を題材にした絵馬のようです。右の船にいる大将が女性(神功皇后か)であり、菊の御紋が記されていること、櫓の上には武士とは異なる格好の人物が指揮をとっている(竹内宿禰か)ことなどが理由の一つです。また、インターネットで調べて見ると、同じような図柄の絵馬がいくつも見つかります。高嶋様には、電話でお伝えしております。(5 月 13 日)



3 坂根八幡宮の変遷

元字福井の山上に鎮座していたが、元禄年間(1688～1704 年)に麓の字川向に遷座した。(大内神社資料)、5月14日の氏子への聞取りでは、「地すべりにより本殿が現在地に落下した。拝殿は潰されてしまった。」と伝承されている。

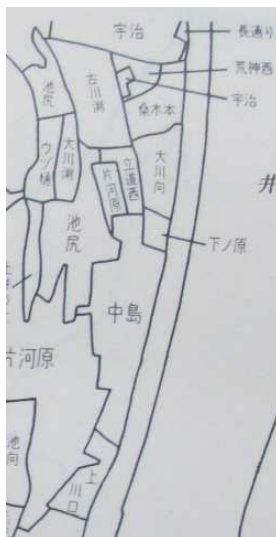


拝殿裏の石段を上がると本殿がある。石垣に扇形が埋め込まれている。

『百枝月に円福寺があり、吉井川をはさんで豆田に圓福寺がある。同一の名前の寺院が近くにある例は他所には無い。これは一つの寺院が吉井川の流れが変化し分割されたものである。』との教示を稲谷裕宣氏より得ることができた。

百枝月の弘慶山円福寺は本尊薬師如来、創立年不詳であり、豆田の福田山圓福寺は本尊釈迦如来、弘法大師密教再興の際の開基と伝えられている。

昭和三十二年発行の吉井川史には、川流変遷説として正平年中(一三四六～一三五五)と天正年中(一五七三～一五九二)の二説をあげている。



4 吉井側の川流変遷

坂根八幡宮は元禄年間(1688～1704 年)に麓の字川向に遷座した。その後、坂根地区は吉井川の川流変遷により、対岸の岡山市東区瀬戸町大内とに分割された。現在も瀬戸町大内宇治地区の氏神は吉井川対岸の坂根八幡宮である。

『吉井川史』に収録されていない川流変遷である。

5 板根八幡宮と吉井側対岸の荒神社



吉井側対岸の岡山市東区瀬戸町大内の宇治に荒神社が鎮座している。瀬戸町大内の宇治地区はかつては備前市の坂根地区に属していた。それが、吉井川の川流変遷によって大内村と陸続きとなった。大内村への編入は明治8年である。荒神社は明治時代に坂根八幡宮の建替え時に、その古材を貰い受け建立勧請と伝承されている。俗に荒神社と呼ばれる。祭神は仲哀天皇 応神天皇 神功皇后の八幡三神であり、八幡宮である。現在も大内宇治地区の氏神は吉井川対岸の坂根八幡宮である。

6 朝鮮の亀甲船に乗る秀吉軍

文禄元年(1592年)5月29日、サチヨン沖。北上する秀吉軍を朝鮮水軍の異様な軍船3隻が急襲した。この亀甲船を建造・指揮し戦局を一転させた男こそ、名将・イスンシンだった。大小40〜74門もの大砲を装備した朝鮮水軍の亀甲船である。艦首と艦尾に龍頭の形をした巨大な飾り物が施されていたのが亀甲船の特徴である。日本軍は亀甲船に対して切り込み攻撃をかけようとしたが、装甲上のトゲのような針の林立に拒まれて、効果的な切り込みをかけられず撃破された。(名護屋城博物館に復元展示)



坂根八幡宮絵馬は、秀吉軍が龍頭の形をした巨大な飾り物が付いている亀甲船に乗っている。これは明確な間違いである。朝鮮出兵からの帰還者に聞取りし描かれた絵馬ではない。

7 まとめ

5月14日の氏子への聞取りでは、「絵馬は岡崎家の先祖が奉納している。奉納年、絵馬の名称は不明である。」と伝承されている。「絵馬は拝殿の天井絵」と所在が確認できた。

坂根八幡宮絵馬は、秀吉軍が龍頭の形をした巨大な飾り物が付いている亀甲船に乗っている。これは明確な間違いである。つまり、朝鮮出兵からの帰還者に聞取りし描かれた絵馬ではない。奉納時期は元



禄年間(1688～1704年)に麓に遷座との大内神社資料から遷座時の奉納と推定する。

豊臣秀吉の朝鮮征伐絵馬である。秀吉軍が戦国時代の甲冑で描かれてる。備前市香登には、豊臣秀吉の朝鮮出兵による鼻塚がある。豊臣秀吉の朝鮮出兵の背景に、神功皇后の三韓征伐思想があった。

正確な絵図の名称は「豊臣三韓征伐之図」である。右上の図名を確認されたい。

8 参考説明 三韓征伐

神功皇后が新羅出兵を行い、朝鮮半島の広い地域を服属下においた。神功皇后は仲哀天皇の后で応神天皇の母である。経緯は『古事記』『日本書紀』に記載されている。朝鮮や中国の歴史書にも関連記事がある。新羅が降伏した後、百済、高句麗も相次いで日本の支配下に入った。直接の戦闘が記されているのは対新羅戦だけであり新羅征伐とも言う。吉川弘文館の『国史大辞典』では、「新羅征討説話」という名称項目である。ただし三韓とは馬韓（後の百済）・弁韓（後の任那・加羅）・辰韓（後の新羅）を示し高句麗を含まない朝鮮半島南部のみの征服である。

9 参考文献

- ① 『岡山県神社誌』昭和 56 年 岡山県神社庁
- ② 『瀬戸町歴史辞典』P58 荒神社 平成 18 年 瀬戸町教育委員会
- ③ 『瀬戸町史料集』P115 昭和 60 年 瀬戸町
- ④ 『瀬戸町観光文化協会 荒神社』Website e-seto.net <http://e-seto.net/jintera/ujikoujin.html>
- ⑤ 『角川日本地名大辞典 33 岡山県』1989 年 角川書店
- ⑥ 『西大寺地名考 備前西隆寺と備前西大寺 -その地名の意味するもの-』 丸谷憲二
『岡山民俗 209』1998 年(平成 10 年)7 月 28 日発行
- ⑦ 『備前の絵馬』平成 11 年度紀要 備前市歴史民俗資料館
- ⑧ 『岡山の絵馬Ⅰ・Ⅱ』平成 4・5 年 岡山県立博物館
- ⑨ 『岡山の絵馬と扁額』脇田秀太郎 昭和 50 年 日本文教出版
- ⑩ 『豊臣秀吉と天下統一』2008 年 双葉社

- ⑪ 『再現 日本史 第25号』平成13年 講談社
- ⑫ 『錦絵の中の朝鮮と中国』2007年 岩波書店
- ⑬ 『合戦絵巻 合戦図屏風』2007年 新人物往来社